

【米里】地域の未来づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 令和6年11月12日(火) 18時30分～20時05分
- 2 場所 米里地区公民館
- 3 出席者 地区15名 市7名【市民生活部長(協働推進課)、教育委員会事務局副教育長(校区審議室)】
- 4 テーマ 学校存続と向き合う地域
- 5 概要

【地元あいさつ】

本日の会は市の幹部の方と、地域の住民が意見交換する場として開催されている。以前からあった地域づくり懇談会がコロナを経て形態が変わり、より具体的な話ができるようにと見直され、米里では初めて行う。新しい形態ではテーマを絞り、あわせてテーマに近い参加者を集めて、あまり大人数ではなく意見交換ができるようにという趣旨で今回企画をさせていただいた。

米里地区では、いろいろ課題もあるが、将来に向けたテーマで、「学校存続に向き合う地域」ということで設定させていただいた。より深い議論がここで行われるのではないかと期待している。そして、米里地区でもいろんな議論ができるようなきっかけになればという思いで進めていきたいと思っているので、本日はよろしくお願いしたい。

【市民生活部長あいさつ】

今日のテーマは、学校存続に向き合う地域ということです。ご存知の通り今、少子高齢化、人口減少について、本市のみならず全国の自治体全てで喫緊の課題となっている。先日のニュースでも、今年度の全国の出生数は70万人を切ると言われていた。本市の出生数は、昨年度は1,143人で、50年前を振り返ってみると、2,838人だったので、約3分の1に近づく4割程度となっている。このように子どもたちを取り巻く環境は大きく変わってきている中で、子どもたちの教育をどう守っていくのか、教育環境の質をどう担保するのか、そして今日のテーマである学校をどういうふうにしていくのか、これを皆さんと一緒に考えていきたいと思っている。時間の許す限りしっかりとご意見を賜りたい。

【教育委員会事務局副教育長あいさつ】

今日のテーマに関わる話はいろいろ聞かせていただいているところだが、それぞれ学校、地域によって実態が様々である。今日は米里地域の実態を勉強させていただきながら皆さんの意見をお聞きしたい。

テーマ「学校存続と向き合う地域」

【地元(説明)】

《テーマの背景・理由》

地区のよねさとづくり協議会の全体会が6月にあり、そこでも地域の課題で小・中学校の適正配置に関する基本方針を受けた検討組織というのを掲げている。

児童の減少に伴い、児童生徒にとって望ましい教育環境をつくることはもちろんだが、学校を核とした地域のあり方も議論していきたい。地区としての総意を形成することが求められており、検討組織の立ち上げを教育委員会からも要請されている。立ち上げをしないといけませんが、説明会をしたくても参加者が少なく、まして地区の皆さん方の合意形成をすることはなかなか難しいのが現状である。

20年後となると、どうしても問題を先送りしがちなところがある。高齢者にとっては、自分はいないという話で議論がなかなか立ち上げられないというのがあると思う。ただ、そのようにずるずるいつてタイムリミットが迫ったときに、拙速な議論になり、単純な議論になってしまったらいけないのではないかとということで、今回このようなテーマにした。

特に小学校は公民館とともに地域の核となっている。米里は古くから、教育熱心な土地で、教育後援会というのがある。PTAの会員というのは保護者や教職員だが、それに加えて各地区の協会員をもって教育後援会を組織している。このようなことから、今日の会は、地域を挙げて幅広い世代で考えていくきっかけにしたい。

《地域の取り組み》

地域と学校のつながりというのは小学校の学習支援や環境整備に、保護者や老人クラブなどを中心にして学校教育の中にもものづくりや伝承芸能を取り入れ、地域の文化伝承などにもつながっている。児童生徒については、地域の行事などに積極的に参加してもらっており、地域に良い影響を与えている。特に先日の米里まつりでは、中学生ボランティアに参加してもらい、地域の住民にも力を与えているというような実際の効果があったと思う。

市の方で学校支援コーディネーターや協力員を設置していただいているが、連携の相手先となる老人クラブ等の組織力が落ちてきており、ネットワークづくりに今、着手し始めている。持続可能な地域と学校とのつながりをつくっていききたい。核となるのには誰が良いだろうかということで、今日も来ている、元PTA会長とかそういった方々とのネットワークをつくり、LINEグループでつながりながら情報共有や協力の呼びかけをして、既存の連携先の力が落ちた部分を何とかカバーし将来につなげていきたいという取り組みをしている。

《課題・質問》

説明会を開催しても、普段、地域の会合に参加しない方に対して情報が届きにくく、考えてもらいにくいという現状がある。また、コロナでオンラインなども進み、社会環境が変わっていく中で、これまでの学校の存続というところの議論が、単純に0か1かという話ではなく、複数のパターンが出てきているのではないかと、そういったことも情報を共有しながら議論し、より良い方策を見つけていくビジョンを描いていくことが必要ではないかと考えている。

例えば、小学校のなくなった地域やうまくやっている地域とかの事例を紹介していただきながら、米里でどのような形が将来に向けて考えられるかをご教示いただきたい。

【校区審議室】

《鳥取市立学校適正規模適正配置基本方針について説明》

本日お話する内容は次の4点。

1. 本市の児童数や学校教育の現状について
2. 鳥取市立学校適正規模・適正配置基本方針について
3. 米里小学校の現状について
4. 学校のあり方を考える会（検討組織）の立ち上げに向けて

1. 本市の児童数や学校教育の現状

ご承知の通り、子どもの数が減っている。令和6年度の本市の児童生徒数は1万3,438名で、令和5年度と比べ、257名の減少となる。令和8年度は、1万2,929名でいよいよ1万3,000名を切るような推計が出されている。本市の児童生徒数は5年で、1,000人のペースで減っている状況にある。

本市全体で見ると、小規模と呼ばれる学校が存在する。小規模の学校は小規模の良さを生かして特色ある教育を展開している。

一般的に言われている小規模校の強みとしては、きめ細かな教育を受けることができる、リーダーになる機会が多い、施設利用の面からゆとりがあるなどがある。課題としては、班活動など学習形態に制約が生じること、クラス替えができないことにより人間関係の固定化が生じること、経験年数や専門性の上で、バランスのとれた教員配置がしにくいことなどが一般的に言われている。逆に、一般的に言われている大規模化の強みとしては、多様な考え、意見に触れられること、グループ学習や習熟度別学習など多様な学習・指導形態がとりやすいこと、クラス替えによる多様な人間関係の構築ができ、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすいことなどが挙げられる。課題としては、児童生徒一人一人の個別の活動の機会を設定しにくいこと、施設利用の面から活動に一定の制約が生じる場合があることなどが言われている。

2. 鳥取市立学校適正規模・適正配置基本方針について

基本的な考え方

- （1）未来を担う子どもたちにとって平等で適切な教育環境の充実を最優先とする。
- （2）おおむね20年後の姿を想定し全ての小学校区で検討組織の立ち上げを促す。
- （3）今後の学校のあり方については地域での責任ある議論を重視する。

地域で話し合っていただく材料の一つとして適正規模の基準がある。本市として適正と考えていることは、小学校については、クラス替えができる規模（12から18学級）、中学校についてはクラス替えが可能で、全ての教科に専門の教員が配置できる規模（9から18学級）としている。もちろん、絶対にこの基準に収めると言っているのではない。一番大切なのは、地域や保護者で話し合っていただき、ある程度皆さんが納得いただく結論を導き出していただくこととしている。

3. 米里小学校の現状について

本市の基準から想定すると、各地域にどれくらいの学校が必要かという目安が次の通りとなる。鳥取市を5つのブロックに分け、20年後の児童生徒推計の減少率と適正規模を満たす学校数を示している。大変厳しい推計が出ているが、あくまでも、今後地域で議論をしていただくための材料として提供しているもので、この計算で出た数字を機械的に割り振るというわけではない。

《桜ヶ丘中学校区の現状と見通し》

桜ヶ丘中学校区は東ブロックで、東中学校区、南中学校区、国府中学校区が同じブロックに入っている。

令和6年時点の児童生徒数は、小学校が13校、中学校が4校で約3,500名の小学生がいるが、20年後（令和22年）には、さらに減少し、少なく見積もって3,000名となる可能性があるという推計が出ている。本市が考える適正規模に当てはめると、将来的には9～10の小学校しか適正規模を満たせないのではないかという意味になる。同じように中学校では、4校程度が適正規模を満たすという意味になる。

桜ヶ丘中学校で現在居住している児童生徒がそのまま入学した場合、令和6年度の生徒数は479名（昨年度比18名の減）、令和9年度まではほぼ横ばいとなるが、そこから減少に転じ、令和18年度には301名と、令和6年度と比べ約180名の減少となる。

現在、出生している子の数から児童生徒数の推移や学級数は以下のとおりとなる。

《桜ヶ丘中学校(生徒数の推移)》

- ・令和6年度の生徒数 479 名（令和5年度と比べ18名減少）
- ・令和18年度の生徒数 301 名 ※見込み

令和18年度の生徒数は令和6年度から約180名減少する見込み。

《桜ヶ丘中学校(学級数)》 ※特別支援学級は含まない

- ・令和6年度 15クラス(全校)
- ・令和18年度 10クラス(全校) ※見込み

現在の県の基準は、中学1年生は33名までが1クラス。中学2・3年生は35名までが1クラス。令和18年度には、3年生のみが4クラス、1・2年生が3クラスとなる見込み。中学校は9～18 学級を適正規模と考えているため、令和18年度まで適正規模となる見込み。

《米里小学校(児童数の推移)》

- ・令和6年度の児童数 149名（令和5年度と比べ1名減少）
- ・令和12年度の児童数 120名 ※見込み

令和12年度の児童数は、令和6年度から約30名減少する見込み。

《米里小学校(学級数)》 ※特別支援学級は含まない

- ・令和6年度 6クラス(全校)

・令和12年度 6クラス(全校) ※見込み

令和6年度の県の基準は、1から5年生が30名までが1クラス、6年生は35名までが1クラスとなる。令和7年度は、1から6年全ての学年で30名までが1クラスのいわゆる30人学級となる。米里小学校は、平成28年ごろから新入生の数が1クラス規模となっており、その人数も今後緩やかに減少していく傾向が見られる。小学校は、12～18学級を適正規模と考えているため、適正規模を下回っている。

少子化はどんどん進行してしまうため、教育委員会で早く決定してほしいといった意見を実際にいただくことがあるが、大切なのは、この地域の子どもたちをどのように育てたいか、そしてどのように地域を発展させていくかということではないか。学校をどんな形にしていこうかという議論は、まちづくりのためにも避けては通れない。教育委員会としては、今、学校のあり方を考える検討組織を立ち上げ、丁寧な話し合いを進めていっていただきたいと考えている。

4. 学校のあり方を考える会（検討組織）の立ち上げに向けて

ステップ1 検討組織設立に関する説明会

- ・保護者等にはPTA 総会等で、地域の方には公民館等に出向いて説明会を行っている。
- ・地域とともにある学校づくりを進めている本市としては、保護者や地域の皆さんに、校区の将来の状況を知っていただき、話し合いの必要性を理解いただきたいと考えている

ステップ2 検討組織設立について決定

- ・新規に検討組織を立ち上げる校区もあれば、今ある組織を活用する校区もある。
- ・今後、他の校区と話し合いをしたり行政に要望を出したりする場合に、地域の意見を集約できる組織が必要。

ステップ3 検討組織の設立・議論の開始

- ・PTA会長、自治会長、公民館長などがメンバーになられていることが多い。子育て世代の方なども考えられる。
- ・様々な意見を出し合うことが大切。設置要綱に定めた目的の達成のために調査検討するとともに、意見を取りまとめていただくような組織と考えている。

ステップ4 ブロック別協議会への参加

- ・教育委員会の呼びかけに応じて、ブロック全体での協議会に参加していただく。
- ・ブロック別協議会では、単独の校区だけでは解決できない課題なども話し合えると想定している。

今後は次のような進め方を考えている。

今日ご覧いただいたような課題について、まずはそれぞれの小学校区で意見を含めた集約をしていただく組織を編成し、検討組織を立ち上げ、議論を開始していただきたい。それぞれの多くの課題について、検討組織として意見をあげていただきたいと思っている。その議論の内容を踏

まえ、教育委員会で方針を決定していく。ブロック別協議会については、今後の各校区の進捗状況を考慮しつつ、適切な時期に設置を考えている。

今の子どもたちやこれから学校に通う子どもたちのため、さらには米里地区、桜ヶ丘中学校校区の未来にもつながる大切な話のため、ぜひともPTAや地域の皆様が一緒になって米里地区の未来を描いていただけたらと思う。

《意見交換》

【地元】

ブロック内の進捗状況を教えていただきたい。

【校区審議室】

東ブロックについては、それぞれの小学校の学校運営協議会やPTAの役員研修会等で、本市の現状や将来の見通し、また検討組織の立ち上げ等の説明をさせていただくような会を実施しており、中には検討組織を立ち上げていただいている組織もある。

桜ヶ丘中学校区内では、全ての小学校と桜ヶ丘中学校学校運営協議会の中で説明は行っているが、まだ検討組織の立ち上げに至っているところはない。

【地元】

実際、児童の数が減ってきている。米里地区としては雲山以外（旧米里）の地区の子どもたちがだいぶ減ってきているような感じがあり、旧米里の子どもたちをもっと増やさないと、古郡家では、来年には小学校の児童が1名になってしまい、あと3年後には、小学校の児童、それより下の子も全くいない状況。どうすればよいのかということは地区の方で話はしている。

【地元】

同感。日々子どもの下校時間に防犯パトロールで雲山も含めて地区を一周しているが、学校から上は子どもが帰っている姿が全然見えない。それほど子どもの数が減っているというのはすごい実感する。地区全体の人口が右肩下がりだという説明を聞いたことがあるが、子どもだけではなく、大人も含めて米里地区の人口が減っていくということが、まず大きな問題としてあることが現実だと思っている。

【地元】

雲山中央町内会、雲山南、東雲山は新興住宅地で、親として、米里小学校に子どもを通わせているが、ほとんどの人が自分の母校ではなく、我々の世代はそれほど米里小学校に思い入れがない。だが、30歳前後の子どもたちは、中学校や高校よりも米里小学校のときの友達のつながりが強い。したがって、我々の世代が、こうして小学校をどうしていくかという話をするのも大切かもしれないが、実際に米里小学校に通って今でもつながっている、30歳前後の人たちにこの議論

に参加してもらう方法を考えていかないと、思い入れのない人ばかりで、なくなってもよいのではないかというような話ではないと思う。

保護者でも地域住民でもないが実家はある、米里小学校に対する思い入れもかなり強い人たちの意見をどのように集めていくかということが一番大切。その世代をいかに取り込んでいくかということが、今後の米里を考える上で一つのポイントではないかと思っている。

【地元】

先ほど説明を伺い、全国的な人口減なので、いずれは学校が集約されていくことは、自然の流れで仕方がないと思う。それで、各地区でいろいろ検討組織を立ち上げて課題を話されているということだが、それぞれの検討組織は、基本的には、今ある現状を踏まえたところでこれをどういうふうに存続に向けていくかという議論だと思う。推測だが、数字としては、かなり集約されていかないと、20年後にはこういった数字にならないと思うが、教育委員会として各地域の検討組織からあげられた意見をどのように集約をして、このような数字に持っていけるのか。今の厳しい現実を踏まえた上で、他の組織ではどんな議論を具体的にされているのかわかれば教えていただきたい。

【校区審議室】

他の地域では、それぞれ学校ごとに検討されている状況について、中学校区で話し合いをし、情報共有をされ、すり合わせをさせていただいているところもある。まだブロック別協議会の設立までには至っていないが、ブロック別協議会の準備会というようなところを開催したブロックもあり、そこでブロック内の小・中学校、全ての代表の方に集まってお話しいただき、今どういった議論がそれぞれの小学校、中学校区で進んでいるのかを、お互い意見交換をさせていただいた。

そのような形でそれぞれの検討組織で話し合われた内容を持ち寄り、情報共有や意見交換をしていただくことが必要になってくるのではないかと考えている。

【地元】

20年後の姿はこうなるよというふうには聞いたが、何年までにこういう形にするとかということとは決めてないという理解でよいのか。

【校区審議室】

その通り。20年後を見据えて、今のうちから皆様方に検討組織を立ち上げていただき、情報共有をしていただくことが大事だと考えている。冒頭におっしゃっていただいた、本当に20年が差し迫ってきってから拙速な議論になってもいけないので、今のうちから組織を立ち上げて、議論を始めていただけたらと考えている。

【地元】

時間をかけていろいろ協議、検討する中では、いろんな視点から考えていかないといけないと思う。そうすると他の地域が協議しているテーマ等を教えていただけると、検討組織の必要性の理由付けにもなるかもしれないので検討していただけたらと思う。

【校区審議室】

一番、教育委員会として考えていただきたいのは、子どもたちの教育環境をどう充実させていくかということ。その中である地域では、20年後、子どもたちにどういった力をつけたいかというようなところから逆算して、今後の学校の形がどういう形であるのが良いのかというようなところを協議している組織もあれば、早急に議論が必要な地域については、子どもたちの教育の現場を充実していくためにどんなことができるだろうかというようなことを考えていただいているようなところもある。

各検討組織でそれぞれアンケートを取っているところもあるので、アンケートの取り方や質問事項について、ご相談いただければ情報提供をさせていただいている。

【地元】

この説明を4回聞いているが、全然実感がわからない。小学校PTAの会長をされていてよくわかるが、旧米里と雲山の温度差がすごく激しい。一概に検討組織を立ち上げてと自治会長とかに話が来ると思うが、それだけ温度差があっては立ち上げるのは結構難しいと思う。

【校区審議室】

やはり立ち上げまでにはすごくエネルギーが必要。4回説明を聞いてくださったということだが、ある地域では、「私は5回目だから、そろそろ立ち上げに向けて頑張ります」と言ってくださった会長さんもいる。立ち上げるまでが大変だが、校区審議室としては、子どもたちの将来を考えた上で、議論をお願いさせていただく。

【地元】

令和6年度から地域学校協働活動推進員に任命されている。その目的として、教育委員会からいただいた資料の中に地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを図る仕組みづくりを推進するとある。やはり学校が核となつてこそ、地域が一つになれるということがある。

「1年生と6年生が発表するので見に来てください」と言われ、地域の方に声をかけたら、行ってみようかと声があったり、「3年生がかかるたとりをするので、地域の人に来て」と声をかけたら、「行くで」と地域の人が協力してくれる。この前も倉田八幡宮に1、2年生と一緒に秋見つけに出かけるのに、13人、保護者も4名集まってくれて、地域はとてつながりを持ってくれている。さっき言われた30代の方たちの小学校の思い出がいっぱいあるというのも、こういうふうに地域の人たちに見守られてずっと育ってきたというのがあるのではないかと思います。これは、

やはり学校と地域が近くにあるからこそできることで、もし統合して遠くに行ってしまったら、こんなふうに地域の人が集まってくれるだろうかと考えてしまう。

今現在、もっと小さい規模の学校が存続しているという現状がありながら、ここでこのことを今から心配するのもどうなのか。そこまで急いで統合のこと考えなくても、もっと地域が学校に何ができるかという方に置いて考えてみたら良いと思う。

【校区審議室】

おっしゃる通り、地域にとって学校はコミュニティの拠点であったり、役割を示しているの
で、そういった視点も踏まえながら、一番最優先するのは子どもの教育環境にとってどれくらい
の規模がふさわしいのかということと考えていただきたいと思う。まだまだ小規模の学校が米里以
外にもあるということだが、この適正規模適正配置の方針の中では、早期に議論を開始しなけれ
ばいけないと言われている地域があり、今のところそういったところを中心に検討組織が立ち上
がり議論されている。米里小学校はまだ複式学級ができていたような状況ではないので、早急に
ではないが、この方針自体は20年以降を見据えて、そのときにギリギリになって、拙速な結論を
出すことがないように、今から議論を始めていただきたいというものになる。

皆さんがおっしゃったように旧米里地区と雲山で温度差があるということがあったので、そう
いったことも含めて皆様の各世代の方からいろんな意見を出し合って、議論の必要性の機運を高
めていただきたい。統合に向かうのか、存続させていくのか、統合するにしても、どこで統合す
るのかということもあるので、長い時間かかるかと思うが、そういったことを20年後を見据え
て、少しでも早い時期に皆様方で情報共有し、意見を出し合っていただき、米里小学校の子ども
たち、あるいは地域にとってどういう形が良いだろうかということの話し合いをしていただけた
らというのが教育委員会としての思いなので、よろしくお願いいたします。

【地元】

資料に「20年後には何校必要?」と書いてあるこの文字がすごく気になって、必要ない学校があ
るように見える。そうではないはずで、何校とか決めなくても、本当に必要な学校は残っていく
のではないかな。もしかしたら、今は子どもたちがいない地域もこれから増えないとも限らない
し、増えるような地域に本当はしていかないといけない。そっちの方も考えないといけないの
ではないかと思う。

【校区審議室】

おっしゃる通り人口が少しでも増えるような地域にしていくというのが一番のことだと思う。
鳥取市も今、人口減少対策本部を立ち上げ、全庁を挙げて、各部署で人口減少対策ができるのか
を進めているところなので、教育委員会だけではなく、いろんな部署と一緒に地域がどう
したら活性化していくのかということは学校の統廃合や存続のことも含めて、全体として考えて
いかないといけない、そういう時期に差し掛かっているのではないかと考えている。

【地元】

「何校必要？」というのがあるのは、数だけで言っているような感じがするが、議論の中では、数の問題だけではなく、他の要素が必要ではないか。例えば、参議院の合区問題がある。島根と鳥取が一緒になったが、鳥取は小さいけど、やはり鳥取県の代表が必要というような議論が今行われている。単純な一票格差ではないが、そのようにならないようにするためにどんな議論のネタがいるのかという提言に向かえたら良いかと思う。

【教育委員会事務局副教育長】

まず確認したいのは、早く統合して減らそうとしているわけではなく、いろいろ課題意識を持って議論していきましょうということだということをもまず共有したい。もちろん、鳥取市で人口が増える方策も並行してやっており、魅力ある学校づくりは積極的に進めたいと思っている。だが現実問題、こうやってどんどん子どもが減ってきている。

皆さんが課題意識を持ってそれぞれの地域の実態に合った今後のあり方を進めていきましょと、少しずつやっていることだということを私は今日皆さんと話し合いをさせていただきながら感じた。また、旧米里と雲山の温度差があるという実態もこうやって直接聞かせていただくとやはりあるということも感じ、今日はいろいろな情報をいただけて有意義な時間だったと思っている。他の実態も知りたいとか、情報が欲しいというようなニーズも感じたので、引き続き、できる情報提供を行いながら進めていきたい。

【地元】

自分自身が米里小学校の卒業生で、自分も南雲山から45分かけて歩いて学校に行っていた。小学生のときはそれが当たり前だと思っていた。30代の人たちが、コミュニケーションがとれているというのは、そういうこともあって、ずっと小さい時から仲が良いからというのはあると思う。40代の年代がどうかと言ったら、年代の人たちによるかもしれないが、米里が、こういう状況になっているということを、まずは知るということがスタートかと思って、こういうところに参加させていただいたから知ることができた。このことを知ってどう感じるか、どう動かしていかないといけないかというのを考える人が増えれば、もう少し話が進むような気がするが、単純にここだけで米里地区が減少していくとかというのを言っているだけでは、広がらないのではないか。今、LINEグループでOB会みたいな感じで組んでいるので、そこを活発に動かし、これからの米里地区が学校存続に向けてどうしたら良いかを議論し、良いことも悪いことも考えていかないと先には進まない話のような気がした。実はこう思っているという、毒の部分が出せないような会だと、多分話は進まないのではないかということも思った。もう少し、このことを知ってもらうというところからだと思う。自分が小学校のときは2クラスあったが、知らない間に1クラスになっていた。減ったと思うだけでは話が前に進まない、減っているということを理解していかないといけないと思う。

【地元】

学校長をしているので、米里小学校の様子、桜ヶ丘中学校全体の様子もよくわかる。今までの様子をトータルとして考えてみて、今後、地域の皆さんが学校に集うということが、私の役目かというふうに思っている。地域の皆さんと協力してこの話題を考えるきっかけをつくっていきたい。あわせて若葉台、津ノ井、面影、米里、桜ヶ丘中学校区全体で考えていくことが大事ではないかと強く感じている。

【市民生活部長あいさつ】

最後に、「もっと深く知ることが大事」との良いご意見をいただいた。まさしくその通り。本日の説明と同じ話を、学校行事やPTAで5回ぐらい聞かれた方もおられましたが、実際のところ、本日、皆さんがお聞きしたいことは、次の進め方はどうなのか、今後のスケジュールはどうなのかなど、まさしく次のステップの内容ではないかと思う。これから子どもたちがどんどん少なくなり、2クラスあったのが、1クラスになった。本当に1クラスが子どもたちのために良いのかどうなのか。これを真剣に考えていただく会議を、次回はステップを上げてやっていければ良いと思う。

今日は、なかなか具体例のところまでいけなかったが、様々なご意見が出たので、それを持ち帰り、次回は多くの情報をご説明できるようにしていきたいと思っている。今日で終わりではなく、今日がスタートだと思っていただきたい。市民生活部も、防犯や子どもたちの交通安全などでかわり、都市整備部は、歩道の整備や除雪などでかかわっている。様々な部署としっかりと連携し、本日のご意見を反映させ、全庁一丸となって皆さんを支えていきたいと思っている。